

社会的スキルトレーニングの 成果を高める要因の検討 (2) ートレーニング回数による比較ー

○太幡直也 (愛知学院大学)
松本明日香 (愛知淑徳大学大学院)

小川一美 (愛知淑徳大学)

キーワード：社会的スキルトレーニング、トレーニング回数

社会的スキルトレーニングは、コミュニケーションスキルなどの向上を図ることを目的とする。松本・小川・太幡 (2016) は、太幡 (2016) のトレーニングを受けた者を対象に面接調査を実施し、トレーニングの成果を高める要因を抽出した。しかし、トレーニングの実施形態によって、成果を高める要因が異なる可能性も考えられる。そこで、本研究では、トレーニング回数によって社会的スキルトレーニングの成果を高める要因が異なるか否かを検討する。

方 法

調査対象者 トレーニングを 1 回受けた者は大学生 18 名 (男性 3 名、女性 15 名)、8 回受けた者は 13 名 (男性 12 名、女性 1 名)、15 回受けた者は 18 名 (男性 15 名、女性 3 名) であった。いずれも太幡 (2016) のトレーニングの一部あるいはすべてを実施した後、個別に面接調査を行った。なお、トレーニングを 1 回受けた者は、松本他 (2016) と同一であった。

質問項目 調査対象者に、個別に面接調査を実施した。松本他 (2016) と同様の手順で、“スキルトレーニングをもっとやりやすくするには、どのようにしたらよいと思うか” について、理由も併せて自由に回答するように求めた。

分析方法 トレーニングを 1 回受けた者の発言は、松本他 (2016) の分類結果を用いた。8 回、15 回受けた者から得られた合計 329 の発言は、2 名の評定者が、松本他 (2016) のカテゴリーに分類した。なお、分類不能の発言が得られたため、“参加者を知っている実施者が実施する”、“参加者を知らない実施者が実施する” のカテゴリーを追加した。2 名の評定者の一致率は 89.1% であった。不一致だった発言は、2 名の評定者に別の 1 名を加えた 3 名による協議の上、再分類した。

結果と考察

最初に、発言の量的な違いを調べるため、発言数 ($M=10.18$, $SD=2.85$)、言及されたカテゴリー数 ($M=7.31$, $SD=1.94$) を、トレーニング回数で比較した。その結果、発言数 ($F(2, 46)=2.25$, ns , $\eta_p^2=.09$)、言及されたカテゴリー数 ($F(2, 46)=0.25$, ns , $\eta_p^2=.01$) には有意差はみられなかった。

続いて、発言の質的な違いを調べるため、トレーニング回数ごとのそれぞれのカテゴリーを言及した者の割合を比較した (Table 1)。主な結果として、以下の三点が挙げられる。(a) トレーニング実施者について、1 回では実施者との関係、15 回では実施者の能力に関する事柄が多く言及された。

(b) トレーニング内容について、1 回では参加者の意欲を高めることが多く言及されたものの、15 回では言及が少なかった。(c) 参加者を取り巻く人間関係について、1 回では異質な属性の者と参加することに関する言及が少なかった。これらの結果から、トレーニング回数によって社会的スキルトレーニングの成果を高める要因には違いがみられることが示唆された。

Table 1 トレーニング回数ごとのそれぞれのカテゴリーを言及した者の割合 (%)

大分類	小分類	1回	8回	15回	χ^2 値
トレーニング実施者	適切な助言や指摘をする	38.9	46.2	38.9	0.21
	親しみやすい雰囲気に参加者に接する	33.3	23.1	44.4	1.54
	トレーニングを円滑に進める	66.7	46.2	33.3	4.06
	資質のある人が実施する	16.7	15.4	<u>44.4</u>	4.69 [†]
	参加者を知っている実施者が実施する	<u>22.2</u>	0.0	0.0	7.50 [*]
トレーニング参加者	参加者を知らない実施者が実施する	<u>50.0</u>	<u>0.0</u>	<u>0.0</u>	18.99 ^{***}
	参加者が意欲的に取り組む	50.0	61.5	72.2	1.87
トレーニング内容	参加者が意欲的にさせるトレーニングを実施する	<u>83.3</u>	69.2	<u>44.4</u>	6.13 [*]
	参加者に役に立つ内容のトレーニングを実施する	<u>11.1</u>	46.2	50.0	7.03 [*]
	プログラムの順序を考慮する	0.0	0.0	<u>16.7</u>	5.50 [†]
	トレーニングの機会を増やす	33.3	23.1	16.7	1.37
トレーニング環境	物理的環境を整える	94.4	84.6	94.4	1.23
	適切な人数の参加者で実施する	33.3	53.8	44.4	1.33
参加者を取り巻く人間関係	異質な属性の参加者で実施する	33.3	69.2	61.1	4.65 [†]
	親密度が低い参加者で実施する	72.2	92.3	72.2	2.21
	異質な特性の参加者で実施する	11.1	30.8	27.8	2.14
	同質な属性の参加者で実施する	50.0	46.2	27.8	2.05
	親密度が高い参加者で実施する	38.9	46.2	<u>5.6</u>	7.58 [*]
	同質な特性の参加者で実施する	0.0	0.0	11.1	3.59

[†] $p<.10$, ^{*} $p<.05$, ^{**} $p<.01$.

注) 表中のイタリックは負の方向、下線は正の方向に有意な残差を示す ($\alpha=.05$)。

注) 本研究は JSPS 科研費 24730522 の助成を受けた。